

超高分解能 OCT 見えなかったものを『診る』

2017年7月23日(日) 8:00~9:00 B会場 大阪国際会議場 会議室 1001+1002



座長

飯田 知弘 先生
東京女子医科大学

ご略歴

1985年 新潟大学医学部 卒業
2000年 Manhattan Eye, Ear & Throat Hospital 留学
2001年 群馬大学医学部眼科 助教授
2003年 福島県立医科大学医学部眼科 教授
2012年 東京女子医科大学医学部眼科 教授
2015年 東京女子医科大学病院 副院長 (兼任)

座長のことは

OCTは、1990年に原理が提案されてから今日に至るまで、目覚ましい発展を遂げてきました。今日においては、日常の診療において必要不可欠な診断機器となっています。

OCTの進歩と普及には、深さ方向分解能の向上が大きく関係しています。Spectral-domain OCT (SD-OCT)の実用化により、高精細な網脈絡膜断層画像が得られるようになりましたが、興和により開発された超高分解能OCT「コーワ OCT Bi-μ(バイミクロン)」は、深さ方向分解能が2μm(組織中)と、従来のSD-OCTと比べて飛躍的に向上しています。網脈絡膜断層像の高精細化により、これまで確認することが出来なかった微細な構造変化を捉えることができ、それにより疾患の病態解明、早期診断、治療へと役立つことが期待されます。

本セミナーでは、超高分解能OCTでこれまで見えなかったものを「診る」ことをテーマとし、3名の先生方にご講演いただきます。高精細画像の魅力、意義、今後の可能性と一緒に体験しましょう。多くの先生方のご参加を心よりお待ちしております。



講演1 網膜外層を『診る』

松井 良諭 先生
岡波総合病院、三重大

ご略歴

2008年 三重大医学部 卒業
2010年 三重大医学部附属病院 神経感覚医学講座眼科学 入局
2013年 三重大医学部附属病院 神経感覚医学講座眼科学 助教
2015年 岡波総合病院眼科 医長

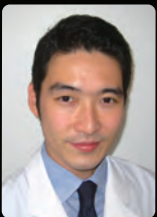


講演2 黄斑疾患を『診る』

長谷川 泰司 先生
東京女子医科大学

ご略歴

2006年 福島県立医科大学医学部 卒業
2008年 福島県立医科大学眼科学教室 入局
2011年 奈良県立医科大学眼科学教室 医員
2012年 奈良県立医科大学眼科学教室 助教
2015年 東京女子医科大学眼科学教室 助教



講演3 糖尿病網膜症を『診る』

中尾 新太郎 先生
九州大学

ご略歴

1998年 鹿児島大学医学部 卒業
九州大学医学部眼科学教室 入局
2000年 九州大学医学部大学院医学研究科(医化学分野)
2006年 米国 Massachusetts Eye & Ear Infirmary 留学
2013年 九州大学病院眼科 助教
2017年 九州大学病院眼科 講師